

スマイル タウン

2023
1・2
月

第323号

ひの社会教育センターは、市民のみなさまの
“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する
施設として、1969年に日野市と（財）社会教育協会が
協定書に基づいて設立しました。
今月もセンターで生きがいがづくりをされる沢山の
市民の方々の活動をお伝えします。

おとな・青少年講座『たのしいカホン』



誰とでも仲良くなれる楽器

- シリーズ 「SDGs を自分ゴトにしてみた！」①
- 表紙の講師は…たのしいカホン
- 2022年度 “まなび” ご案内
- センターからのご案内 賛助会・寄付お礼

SDGsを自分ゴトにしてみた!

2030年に向けた国際コンセンサス「SDGs」。センターのある日野市もSDGs未来都市に指定され、様々な所で17個の目標ロゴマークを目にするようになってきました。SDGsの目標はどれもシンプルでとても大切そう。しかし、この目標を達成するには自分たちに何ができるのでしょうか。

今年度はひの社会教育センターの職員がそれぞれ関心のあるテーマを取り上げ、「自分ゴト」としてとらえ、その分野の実践家や専門家と対談しながらSDGsの取り扱い方について考えていきます。



シリーズ

「SDGsを自分ゴトにしてみた!」①



「12 つくる責任 つかう責任」
「2 飢餓をゼロに」

今回は職員の林実梨が、みなみだいら児童館の、小学生クッキング講座で、お菓子作りを教えてくださっている小久保由起さんに「食」に関わるSDGsのお話を伺いました。

北杜市の「森のおやつさん」

林：始められたきっかけや、現在のお仕事についてお聞かせください。

小久保：きっかけは家族でハイキングに行ったとき、野山の栗や木苺、栗などを食べたこと。自然にはこんなに美味しくて、拾って食べて笑顔になれる食材がたくさんあるということとを改めて見つけたことでした。当時、まだ小さかった自分の子どもたちに、市販のお菓子やケーキで安心して出せるものが少ないと感じていた私は、その後自分で作ってみることに。特別、料理が得意ということではありませんでした。高校時代に食品化学について学んだ経験を基に、自然の中で見つけた食材から、焼き菓子やジャムなどへの加工も試していきました。周りの方の後押しもあり、お店を出すことに。ただ調べていくと営利目的の起業はともハードルが高く、たまたまの縁がつながったことから、北杜市に居を構え、あとから工房「森のおやつさん」を作ることになりました。現在は、冬季は雪があるので工房は3月までお休みです。春から12月いっぱいまでの、注文生産をしています。日野市内でも販売会をすることもあります。



↑ 小久保由起さん
ひの社会教育センターの
手づくり市にも出店してくれています

インターネット販売の前身「パソコン通信」

林：店舗をもたずに営業を始めて、当時どのように販売をしていたのですか？

小久保：清里でのイベントに誘っていただき出店したり、「パソコン通信」というインターネット販売をしていました。それは画像もなく文字でのやりとりで、自然災害で販売できなくなってしまう果物などを抱え、困っている農家さんと連絡を取りあい、送っていただいた物を、ケーキやジャムにして送り返したりしていました。

林：近所付き合いのインターネット版のように面白いですね！

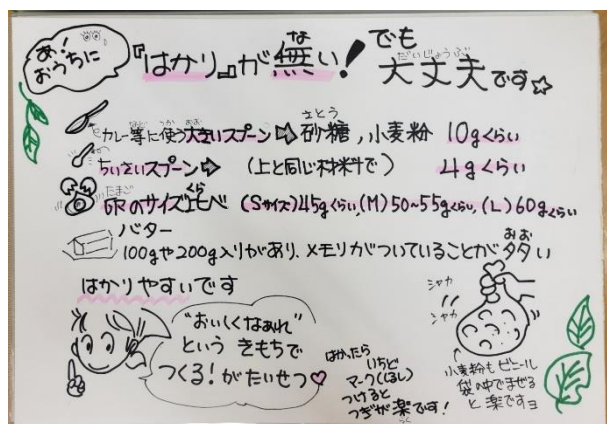
小久保：当時から「もったいない」という精神は持っていたけど、その逃げ場がなかったということなんですよ。フードロスという言葉もない時代ですが、でもみんなが意識はしていませんでした。

当時、講座などでお伝えしていたジャムなどに加工することの提案から、ヒントを得た農家さんの商品開発したものが、今でもサービスエリアなどで販売されているのを見ると、自分が見てきたことが間違いはなかったなと、嬉しく思います。

みなみだいら児童館での事業

小久保：北杜市で工房を持ったことから、児童館の職員の方との偶然の出会いもあり、現在の児童館での仕事にもつながりました。一般的なお菓子教室ではなく、おうちにある身近な材料、器具で、お菓子を作りたいというのが私の思いです。足りないものを何があっても揃えるというのではなく、持っている器具や材料でも出来る、それを楽しんで作ることを提案することが自分の役割と感じながらやっています。逆に子どもたちから教わることもや見も、毎回あって、そういうことがあるからやめられないですね。心を込めて作る、ということをお伝えしていきたいです。

林：子どもたちも自分で作ったものは残さないうですよ。『教えてくれる方』『みんなで作ったもの』を前にすると、愛着が湧くのかなと、見ていて感じます。



↑ 親しみやすい小久保さんの手書きイラスト。
レシピもすべて手書き。

林：今、学校での食育は時間の制限などもあり、給食も苦手なものは食べない、というやり方の方ですが、好き嫌いは食べていれなくてはならないのですか？

小久保：あせらない方がいいとは思いますが。その結果が出るのはけっこう先の話かな。今って長い目のスパンを持ちにくいように、世の中にそんなのかな？とも思います。

見守ることがすごく大事だと感じます。見守ることになんかの力も無いと思っていたのですが、だんだんわかってきたことは、それを子どもたちに「教える」のではなく「重ねる」ことなんだな、と。

SDGsについても言えることで、今すぐに達成させようとする数値目標ではなく、もともと根底の「自分ごと」にするには、わたしたち大人が昔を思い出すことだと思います。元々日本は資源が乏しくても有効活用能力があつて、サ



↑ 小久保さんにインタビュー
右はみなみだいら児童館勤務の職員 林 実梨

ステナブルも出来ていたはず。食にしても何にしても、経済をまわすために多少のロスには必要悪とされ、古来持っていた循環の社会を次世代に教えないことがもつたのではないと感じます。

林：経済を回すため、日本が発展するためには仕方なかったこととしても、ものづくりも技術を失ってしまったのは取り戻せない、壊したものを作り直すことの方が大変ですよね。

小久保：人々の中に、気づきはとづくにあつたけれど、目先の経済が目くらましになっていきます。SDGsは誰しも持っているもので、それを意識的にすることでだいぶ違うのでは？と思います。考えよう！ということ発信していきたいですね。

そして、子どもは経験値が少ないから考えられなくても当たり前だと思ってください、と。やがて子どもが培ってきた経験値が運動してきます。

そして私たち大人が忘れていたものを思い出して伝えることができるはずで、その中で自分が幸せだな、と思うことをさがしていければいいと思います。回り道が無駄かな？と思っても、あとからすべてのものが無駄じゃないと思えるはずなので。

数値じゃないということや、物事の結果が出るには長い時間がかかるということ、ご自身の生活や子育て、『森のおやつさん』をされてきた人生の中で、長い時間をかけて体験されてきたような小久保さんのお話。

実体験からのお話には説得力があり、わたしたちも「社会教育」をとおしてそれを体現していきたいと思いました。

表紙の講師を紹介！

『たのしいカホン』講座

第一土曜日 10時から11時半

講師 木下雄也先生

先生とカホンについて

ギターやドラムなど、たくさんの方に馴染みのあった木下先生がカホンに出会ったのは15年前。センターでの教室は6、7年前に「カホンを作るワークショップ」から派生して始まりました。

カホンはペルー発祥の打楽器。リズム楽器なので、メロディを奏でる楽器の後ろで演奏し、どんな楽器ともコラボレーションを楽しむことができます。またポップスでもジャズでもジャンルを問わず、馴染みや楽しくやましないところがいいところです。箱の大きさや叩く位置によつて音の響きが変わり、リズムにさえ合っていれば間違いないことはありません。歴史が浅いゆえに、伝統的なやり方というものがなく、自由でルールがないことも魅力です。

教室の様子

月に一度のクラスのため、ご自宅での練習も皆さん熱心です。パートに分かれリズムを響かせ合う様子は、とても楽しそうに聞いていただけで体もリズムに合わせて動き出してしまうようです。現在は大人の方のみのクラスと、親子でクラスの2クラス。親子で一緒に習い事というのも素敵です。

先生に聞きました！

「持ち運びやすくいつでもどこでも演奏できるので、ライブハウスはもちろんのこと、カフェでのライブや結婚式の演奏などに重宝されることが多く、近年需要が増えてきている楽器だと思います。演奏をとおして生まれる人とのつながりも楽しいです。クラスの皆さんも、発表の場がある方がやりがいにつながると思っています。コロナも落ち着いてきたので、またイベントなどで発表しながら楽しくやっていきましょう！」

ユーモアあふれる木下先生曰く、「主役をやるタイプの主張の強い楽器と比べると、カホンはおとなしく、何にでもかけられる『塩』みたいなタイプ。満員電車では椅子にもなりますよ(笑)」と。箱型の楽器、カホン。とても愛着が湧きそうです！



北欧・デンマークから学ぶお話し会 **オンライン講座**

スピーカー：ピーダーセン海老原さやか（デンマーク在住・公立特別支援学校勤務）



2021年5月からスタートし、トークテーマを3か月ごとに变えて開催しているお話し会。1回ごとの参加が可能です。デンマーク在住の日本人で、現役教員・働くママのピーダーセン海老原さやかさんから、オンラインでお届けする生の声。時差7~8時間の場所にいるさやかさんとつながり、参加者のみなさんと対話をとおして学ぶお話し会です。

幸福度が高い国と言われるデンマークの日常から「自立する心の育て方」を学び、さやかさんとゲスト対談者の方をお呼びする会も取り入れながら進めていきます。学びつづけ、伝えつづける。これは生涯学習・社会教育のテーマでもあります。2023年も一緒に学びましょう！

日時： 第8回 テーマ「デンマーク×セクシャリティー」

2023年 6月11日(日) 15:00~16:30

申し込み受付中!!

参加費 1,650円（申込は2日前まで）学生さんは参加費500円（窓口扱いのみ）

「デンマーク『学び』をめぐる旅」
2023年5月13日(出)~21日(回)7泊9日

デンマークの「大人と子どもの学びの場」や「学びと暮らしのようす」を実際に見て・聞いて・感じ、めぐる旅です。「人を育てる国」デンマークを体感し、社会と教育のデザインと一緒に学びましょう。

デンマーク王国大使館後援



子どものからだを知る講座

講師の先生方に直接足の相談もできます

2023年
2月18日(土)
13:30~15:00
参加費 1,000円
(同伴の子どもは無料)



場所 TreeHALL 日野市多摩平3-1-1 Tomorrow PLAZA 2階
参加費 1,000円(同伴の子どもは無料) 定員100名

お申込み お電話(042-582-3136)または右のQRコードから申し込みフォームに入力いただき、送信ください。URL入力の場合はこちら→<https://x.gd/euC2V> 参加費は当日会場の受付にてお支払いいただきます。



講師



村田 健児
埼玉県立大学(助教)



上野 智世
足のクリニック表参道
(理学療法士)

協力：株式会社フージャースコーポレーション

震災イベント2023

ひの社会教育センターにて

◆ 3月5日(日)

第1部 13:30~14:30 コンサート「筑前琵琶&ギターコンサート」

第2部 14:45~16:00 講演 講師：吉田由布子氏

「甲状腺がん 子ども基金活動の現状と子どもたちの今」

◆ 3/5(日)~8(水)

写真展 フォトジャーナリスト 森住卓氏

「福島 風下の村~放射能の可視化~」



その他 震災支援物品販売コーナー有 藍染サークル作品・三陸産わかめなど

主催：震災支援イベント実行委員会 共催：ひの社会教育センター・賛助会

日野市中央公民館・ひの社会教育センター 連携事業



映画『365日のシンプルライフ』上映
& 森下詩子さんトークイベント



3/21(祝・火)

10:00~12:15
開場 9:45

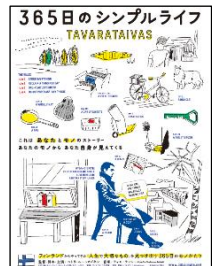
観た人が“自分ごと”にできるような映画の配給と、クリーニングデイのイベントデザインについて研究・実践されている森下さんのお話です。

提供・配給：パンドラ+kinologue

第1部 北欧フィンランド映画から、暮らしを整え、本当の自分に向き合うためのヒントを学びましょう。

『365日のシンプルライフ』上映

監督・脚本：ベトリ・ルーカイネン
提供・配給：パンドラ
2013年/フィンランド/フィンランド語/
カラー/80分提供



第2部 フィンランド発のアップサイクルイベントの情報をシェアし、地域と、人とつながる豊かさについて考えましょう。

「クリーニングデイ」を知る
トークイベント

ゲスト：森下詩子さん
(クリーニングデイ・ジャパン代表、
kinologue 主宰)



【会場】Tree HALL 多摩平 3-1-1 Tomorrow PLAZA 2階

【参加費】無料

【対象】リサイクル、北欧、SDGs 等に興味のある方

【定員】事前申込制で先着 50名

【申込方法】3月3日(金)9時から電話または来館

【申込・問い合わせ先】

中央公民館 ☎ 042-581-7580

9:00~17:00
月曜・祝日休



賛助会へのご協力ありがとうございます ★順不同・敬称略

- ① 個人会員 1口 1,000円
柿田雅子 50口 高山和一 3口 内田照子 2口
田中徹・洋子 10口 小林裕子 3口
佐藤勢津子 5口 稲垣真弓 5口
- ② 団体会員 1口 5,000円
いにしえ体操会 2口